

一九七七年二月一〇日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakaisushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポル幡ヶ谷九〇四 電話03)337714649

FAX(03)3329915367

振替 〇〇一〇〇一九一五八四三三 労金 中央労金本店 No.1154163

購読料 月額700円

6ヵ月前納制

〈もくじ〉

巻頭言 小西 純一郎……………2

■巻頭言■ 東北・関東大震災に立ち向かおう

小西 純一郎……………2

東日本大震災と労働運動

編集部……………3

反原発の大運動を福島で

稲村 守……………5

生かされなかった教訓(二)

相沢 瑞男……………7

―宮城県の学校現場から―

世代交代で三つの課題を实践

川越 俊巳……………8

―発信つづけて二八年「反合研通信」三〇〇号達成!―

悲しみを分かち合い、励ましあう

……………11

―被災地の国労組合員―

気をつけよう!大災害を利用する支配者の意図

……………12

読者からのおたより……………13

編集部だより……………10

旬刊 社会通信

NO. 1095

二〇一一年五月一日号

(二〇一一年五月一日発行
毎月一日・一五日二回発行)

東北・関東大震災に立ち向かおう

原発は見直しを

被災された皆さんに心よりお見舞い申し上げます。

三月一日午後二時四六分に発生した東北・関東大震災と津波の猛威を映像で知ったとき言葉を失った。まだ被害の全容がつかめていないようだが、死者行方不明者が二万七〇〇〇人と報じられまだ拡大しそうだ。被災の様相は一六年前の阪神大震災と大きく異なり、町や村が津波によって根こそぎ喪われてしまった。被災の範囲が広範囲に及び、救援の手を阻んだことも被害をさらに拡大させたようだ。なんとか震災と津波から生き延びた人々が避難所に基本的な救援物資が届かない中で、寒さに震えながら人々が亡くなられる事実は残念でならない。

大震災に追い打ちをかけたのが福島第一原発事故だ。地震と津波そのものは天災だが、原発事故は起してはならない人災事故だった。「想定外」などといういいわけを聞くわけにはいかない。原発の危険性は指摘され続けてきたが電力会社と政府、御用学者は安全だと言い続けてきたのだ。今は現況の危機の克服を願うしかないが、責任は取ってもらわねばならないし、日本中の原発の見直しをするしかないだろう。放射能汚染は広がる一方だ。まだまだ情報が開示されていないと思う。原発現地での復旧作業を強いられる労働者からの被曝が報じられている。

被災者には徳政令を 大企業には大増税を

大震災と津波から生き延びた人々は避難所生活で当面の生を繋いでいくことになるが、生活再建という気の遠くなるような課題がある。政府は被災者に対する一〇万円の無利子の貸し付けなどという政策を打ち出しているようだが、それで生活再建ができるかとも思っているのだろうか。被災者はゼロからの出発ではなく多くの人々はローンを抱えている。大きなマイナスからの再出発なのだ。

これまでの災害の経験で政策を打ち出すことは誤りだ。今回の震災からの復興は革命的な出直しが求められている。復興の財源が必要だ。今こそ大企業に対し震災復興のための特別税を徴収するべきだ。政府は働く者には増税し法人税率を引き下げ続けてきた。大企業には内部留保金があり余っている。増税で復興の財源を生み出す必要がある。被災者には徳政令で借金を免除し、弱肉強食の自由競争ではなく国として地方自治体と一緒に町と人々の生活再建策を打ち出していかねばならないだろう。

雇用を守れ 休業には補償を

働くことは、生活の糧はもちろん、生きていく上での欠かせない営みだ。震災で多くの企業が打撃を受け、また直接的に間接的に影響を及ぼしている。こうした状況の中で三月一八日厚生労働省は地震に伴う労働基準法などに関するQ&Aを出した。これによると、「地震により直接的な被害を受け休業させる場合、計画停電により休業

させる場合は休業補償の必要はない。」との見解である。厚生労働省は、こうした見解を出す前に休業に追い込まれる労働者と中小企業に対する支援策を打ち出すべきだ。

一六年前に阪神大震災の時、解雇された被災労働者がある労働基準監督署に相談に行く、「地震に文句を言え」と回答された。労働省の姿勢が問われた。

私たちは「被災労働者ユニオン」を結成し解雇の撤回や、雇用保険の資格認定、休業中の雇用保険の受給手続きなど、被災労働者が当面の生活を維持し、再雇用へ展望をもてる取り組みを行った。今回の大震災でも起こっている働く者に対する休業、解雇などの事態は被災地のみならず全国化する可能性がある。当面は現行の制度の中で雇用保険の受給と、休業の場合の補償の闘いとなるだろうが、一人ひとりの労働者が諦めずに声を上げること。私たちはその声を受け止め運動にしていくことが求められている。

震災復興は秩序ある取り組みを

一六年前、阪神大震災後、被災地には解体や建設に関わる多くの仕事が生まれた。その仕事の分け前に預かるうと、携帯電話一台持ったような人夫出し業者が大量に出現した。賃金の未払いや暴力事件で武庫川ユニオンにも多くの相談が寄せられた経験がある。

震災からの復旧・復興で大手ゼネコンだけが儲かるのではなく、行政や地元業者が仕事を失った被災者を雇用し、秩序ある復興事業の仕組みを作り出してほしい。今こそ政治主導が求められているのではないだろうか。

被災地のユニオンに対するカンパに協力を

阪神大震災では全国から大きな支援を得た。ユニオン全国ネットワークからも支援カンパを頂いた。全国のユニオンの仲間の支援の中で「阪神大震災 労働・雇用ホットライン」に取り組み、被災労働者ユニオンに運動を進めることができた。

労働問題が顕在化してくるのはむしろこれからだと思う。様々な団体や街頭で義援金活動が取り組まれている。組合員のみなさんもそれぞれ支援の活動に参加されていると思うが、困難な中で活動を進めている東北ユニオンネットの仲間たちへのカンパ活動が取り組まれている。武庫川ユニオンでも第八回執行委員会支援カンパ活動を決定した。組合員のみなさんの支援を呼びかけたい。できれば同封の郵便振込でお願いしたい。

(三月二六日記、武庫川ユニオン書記長 小西 純一郎)
振込先 郵便振込口座 011601136300 名義 武庫川ユニオン

東日本大震災と労働運動

東日本大地震から約二ヶ月労働運動、春闘はどうなるか。

地震への労働組合・連合、全労連、全労協の対応ははやかかった。連合は三月一四日、緊急三役会を開催し、①災害対策救援本部設置、②支援「緊急カンパ」実施、③当面

の取り組み、④支援ボランティア活動を決定した。労働組合として当たり前のことである。

注目されたのは労働者独自の課題への対策だ。地震は三月十一日、連合春闘の恒例行事JC集中回答日十六日の直前だった。これへの連合の対応は――

①被災した組合員、家族等の安否確認、救援活動、被害状況の把握を最優先で取り組むことを基本とし、交渉ならびに回答引き出しについては、各産別の自主的判断にもとづいて取り組む。

②回答を引き出し可能な組合については、それぞれの方針にもとづき交渉を展開し、回答の引き出しに全力をあげる。

③今後の対応については、災害復旧の状況を見極めたうえで改めて判断を行う。

救援対策が重点とされ、春闘は「各産別の自主的判断」と脇におかれた。今後の対応について「災害復旧の状況を見極めたうえ判断」とした。地震・津波、福島原発という自然災害と人災復旧には数年の月日が必要とされることは確実だ。春闘に象徴される日本労働運動への不安である。一九九五年の阪神大震災では関西私鉄労働組合が大手集団交渉から離脱。私鉄ではそれ以降企業別交渉を強めるばかりとなった。

メーデーが間近にせまっている。全労連、全労協は従来どおりの取り組みを予定する。しかし、連合は『連合 東北地方太平洋沖地震救援カンパ』の取り組みを、各構成組織・地方連合会との連携により、職場や地域で活動を展開して「いると、会場を従来の代々木公園大集会場から小集会の開催場所である代々木公園B地区野外ステージ（音楽堂）に変え、①結集デモ、②ふれあい祭り等すべての行事を中止した。メーデーは連合会長が「国難」という事態のなか、労働者の立場からする復興をアピールする絶好の機会でもあると思うのだけれど。

こんななか連合は四月四日、賃金回答状況を発表した。集中回答日に回答が出されたのは要求を提出したJC五十三組合のうち電機十三、自動車四、基幹労連二十四、JAM九の三十三組合。回答は①賃金水準維持、②一時金、③パート等の時間給引き上げほどの組合もほぼ昨年どおり。しかし中堅、中小組合の回答が難航していることを示す。

こんな回答への労資双方の評価は「一時金で昨年実績を超える回答を獲得できたことは高く評価」（自動車総連）、「多くが昨年比プラスの回答を引き出しており、一定の受け止めはできる」（連合）、「非正規労働者の賃金水準の底上げにつながる」（電機連合）に対し、日立資本は「今年度の業績などを踏まえた最大限の決断」と論ずる。JC集中回答は五つの連絡共闘会議結成で実質くずれていた。今度の地震はその動きをさらに加速するだろう。

連合執行部の構成は会長が電機、事務局長が電力、春闘責任者が鉄鋼。電機は原子力発電のプラントをつくり、電力が運営し、鉄はそれらに素材を提供する。彼らからは原発見直しの声はいっさい聞かれず、原発事故では情報公開、すみやかな安全確保がまず重要というのみ。

連合会長は「未曾有の大災害」、「国家の危機」「非常事態に値する災害」と、与野党は手を携え、「危機管理内閣つくれ」とこあるたびに強調する。

反原発の大運動を福島で

―京都の合同繊維労組が救援物資を搬送し東北の被災労組と交流―

合同繊維労組・福岡修書記次長と中矢貞夫執行委員に京都総評・稲村守事務局次長が同行し、東日本震災被災地に救援物資搬送と被災労組との交流を行い、激しい被災現場の案内も受けた。

四月八日（金）夜京都を出発し、ワゴン車でパジャマ二五〇着を満載して仙台の特別養護老人ホームに届け、岩手・宮城・福島三県の東北の被災労組から被害実態と対策方針を聞き取り、今後の救援活動についての交流を行ってきた。四月八日の不眠での仙台まで八〇〇キロ・一二時間の運転を含め、四月一日夕方京都市の四日間の強行スケジュールをこなした。今回、一番遠い釜石までは約千キロであった。

京都から仙台

二〇時三〇分に京都駅八条口で、合同繊維労組三役から見送られ、雨の降る中を京都東インターにのり、金沢・新潟経由で磐越自動車道から東北自動車道を経て仙台に入った。前日夜の大地震でストップしていた高速道路も再開し、不眠不休で四月九日（土）午前一〇時に仙台駅前の東北全労協事務所に着。宮城全労協大内忠雄議長と酒井実事務局長に迎えられ、大震災とその後の状況と労組の取組み、問題点についての概要をお聞きし、市内若林区の特別養護老人ホーム・白東苑に案内していただいた。

同ホーム高橋治理理事長は一九八三年まで宮城県労評（かつての総評県組織）議長を務められ、八〇年代の労戦右翼再編に反対された時代を思い起こされながら、私たち三人に心からねぎらいの言葉をかけていただき、合同繊維労組から数日前に三千本のタオルが贈られたことも感謝された。

このホームは甚大な津波被害を被った仙台市名取市の近くで、五〇〇メートル近くまで津波が押し寄せたが直接の被害は免れた。そこで当初、名取市の被害にあった老人ホームの避難所として救援活動に当たられ、老人ホームの理事長会の取りまとめも担われているので、タオル・パジャマの必要なホームに配分するネットワークとして運動すること。合同繊維労組はさらに三百着のパジャマの贈呈も伝えて皆さんの笑顔を眠気覚ましに、老人ホームをあとにした。

北上市（岩手県）から釜石

三人を乗せたワゴン車はその後東北自動車道を北上し、二時間かけて岩手県北上市の「共生ユニオンいわて」の書記局に到着し、午後五時から東京から駆けつけた全労協金沢議長を始め全国一般全国協議会の計五人の東京のメンバーと交流会を行った。

いわてのユニオンの皆さんは、北上から車で三〇分ほどの遠野市（柳田国男の『遠野物語』で有名）に前線基地を設けて三陸海岸の市町村の救援活動を行うとのこと。

翌日に釜石まで激しい被災現場への案内を受けたが、遠野から二〇〇〜三〇〇分での沿岸部にも出動できるこの市に、警察や自衛隊や様々なところが前線基地を置いている。新聞によると東大も基地をつくるとのこと。ここに、すでに大阪全労協からは整体

師の派遣や様々な専門領域のボランティアを含めて申し出を受けている全国の仲間の受け皿に行こうという、中期的な救援計画もうかがうことが出来た。

翌朝一〇日(日)、北上市六時半出発で釜石の被災現場を見て、大きな船が地面に打ち上げられ、今にも倒壊しそうなビルや裏返しの自動車や道路の左右に掃き分けられたままの家財の山に声を失った。警察、自衛隊、N T Tや専門家集団が撤去や再建に向っているがちよっとやさっと進みそうにはなかった。釜石市役所もそれらの中に埋もれていた。

釜石、そして再び仙台

予定を二時間過ぎて仙台に到着し、前日の宮城全労協議長・事務局長から東京のメンバーを含めて改めて話を伺い、仙台空港とその周辺の名取市の津波被害現場を案内いただく。「見たことはないけど戦場みたいだなあ」と合織の二人。加盟単組の委員長宅も丸ごと流されたという名取市の広々とした住宅街は、焼け野が原のようだった。すぐ近くの仙台空港に行く途中のビニールハウスの骨だけが伸びて反り返っていた。一面の元畑の砂原に飼い主を失った子豚が走っていた。再建の展望が不明の仙台空港の手前には死体も眠っているかもしれないという状態で家財が散乱していた。一軒だけ半壊で、家族総出で荷物をまとめていた。

仙台から郡山

宮城全労協議長・事務局長の見送りを受けて高速道路にのり、予定より一時間半遅れて一七時半福島県郡山市到着で、「ふくしま連帯ユニオン」の皆さんの出迎えを受けた。原発難民の書記長、原発運動の市民団体でも活躍する女性部担当の方も憤懣やるかたない東電と政府の対応に怒り、「事故の原発の廃炉と稼働している原発を止めさすのは当然だが、沖縄県民大会のように、原発の大運動を福島で全世界集会としてこの秋に成功さそう」と、近くの避難所の救済活動方々自治体や県知事への申し入れも行いながら、構想は遠大である。

近所のラーメン屋さんで会食しながらも原発闘争と労働相談・救済活動の意見を激しく闘わしながら、別れを惜しんで二〇時半、南の東京と西の京都市行きに分かれて東北をあとにした。

岩手・北上のユニオン事務所には「岩手県詩人クラブ」の看板も並んでいた、「まちづくり・・・」や「憲法・・・」の看板には驚かないが、「詩人云々」の看板には感激してしまった。ユニオン書記長でもある岩手県詩人クラブ・山下正彦事務局長から『いわての詩 二〇一〇』という素敵な詩集を戴いた。

編集後記にこうある。「作品は県民の財産である。県民の手に、耳に、心に届けたい。詩人たちの詩へ寄せる青春の胸の高鳴りの数々の思いが、作品が、響いてくる」という。日本史上最大の大震災にあった東北の人たちは、必ずこの試練を乗り越えて、その粘り強さと智慧と誇り高い文化の力で復旧・復興を遂げられるだろう。私も東北人の一人として心から祈念したい。

(二〇一一年四月一二日 稲村 守)

生かされなかった教訓（二二）

―宮城県の学校現場から―

学校では 大震災が起きた一日は金曜日で、一四日月曜日は休校とすることを決めて、一三日の日曜日に全職員で児童、保護者の安否確認を兼ねて家庭訪問をした。私が出た地区は、不在の子もいたが元気に対応してくれた。その後、市教委から全市の学校は二四日まで臨時休校とすることが指示された。そして、卒業式、修了式は学校の実情に合わせて、実施することも指示された。

私の勤務する学校は二四日に修了式二五日卒業式を実施した。沿岸部の学校では、二九日卒業式というところもあった。それと並行して、校舎が安全かどうかの検査が行われた。仙台市で二〇校ほどの学校が危険校舎と認定され、児童生徒の入室が禁止され、他の場所での学習ということが決められた。

私の妻の勤務する学校も危険校舎と認定され、四月から隣接する小学校の特別教室や空き教室を利用しての学習となった。また、別の学校では、隣接する学校、市民センター、児童館と三か所ぐらいに分かれての学習をしなければならないところも出てきた。また、そのための引越しも大変で、職員は勿論、保護者、ボランティア、引越し業者など総動員で行われた。私の妻は、大震災、避難所支援、引越しで連日ぐったりで、家に帰ってきて食事をすると寝てしまう日々であった。そして大変なこととは、学年七〇名ほどが一つの教室で学習しなければならないことである。大震災の影響でストレスを感じている児童をこそ十分なケアが必要な時に、大勢の教室で学習しなければならないのは、常日頃、市教委が「子供こそ最優先に大切に」と言っていることと矛盾している。「想定外の大震災」の言葉で簡単に処理されているとしか思えない。障害者同様、弱い者がいないがしろにされている。

そんな中で、三月一六日に私は校長に呼ばれて「教育活動改善シートの提出について」という文書を渡された。これはいわゆる自己評価シートで、五年間不提出で闘ってきた。この大震災のさなか、避難所支援、児童の安否確認などで昼夜を問わず働いてきたこの時に、この仕打ちかと怒りより校長という職のあわれさを感じた。しかも、日付が三月一日とは。

いくら市教委から指示されたとはいえ「すさまじきものは宮仕え」ということか。この文書には「三月二二日まで提出のこと」と書いてあったが、さすがに二二日には何の話もなかった。それとも、校長が転勤になったので「せいせいした。あとは次の校長に」ということか。その校長も沿岸部近くで、避難民が多い小学校に転勤していた。

避難所では 私の従兄弟は仙台東部の沿岸部に住んでいた。とても気になっていたが、ガソリンがなくていけない状況ではなかった。それが、大震災から五日目ぐらいに連絡が入り「生きています。いまは、避難所暮らした。」と連絡がきた。ほっとしたが、見舞いに行けないもどかしさがあった。大震災後はすべてのライフラインがストップして、

生活全般に支障をきたした。水と食料そしてガソリンの確保がとても大変だった。震災後、まず水と思えば近くの湧水が出るころに向かった。ところが、車の渋滞が五〇〇mぐらい続いていて、とても水汲みどころではないとあきらめた。また、食料の確保も大変だった。スーパーなどの店舗が壊れ、入店できる状況ではないところが多かった。私も生協の店舗に二時間並んだ。しかし、買える品物が一〇品と決められ、欲しい物が売ってはず何のために並んだのかとあまり必要ではない物を買ってしまった。

ガソリンは悲惨で、延々長蛇の列で同僚は二時間並んだが、三台前でストップされたと嘆いていた。また、道路のいたるところにガソリン切れで放置されているとみられる車があった。そして、いつ開くか分からないガソリンスタンドの前には、放置された車の列が並んだ。開いているスタンドには超長蛇の列が続いていた。私も次の日に開くという情報があったスタンドの前に前夜に車を放置して、次の日の朝に三時間ほど並んで二〇リットルほどを確保した。しかし私の車の前に割り込む車があった。そのような話を聞いていて、殴り合いをしてほしいが、まさか私の前にとは、あされたが彼も背に腹は代えられない状況なんだろうと考え殴り合いに発展したら怖いと黙っていた。

話がそれだが、ガソリンが手に入ったので、三月末に避難所に行ってみた。その前に、従兄弟の家はどうなっているのだろうかとうと自宅方面に向かった。七北田川（ななきたがわ）の堤防沿いに家はあったが、川の中に五、六軒の家が流されていた。自宅近くに行ったら、警察がいて「この先緊急車のみで、一般車は通行禁止」だという。道路脇には、流された家の残骸やガードレールにひっかかっている車、堀に逆さまに落ちている車などなど悲惨な状況だった。従兄弟のいる避難所に着いて中に入ったら、ほとんどの人がマスクをしてごほごほと咳をしていた。

従兄弟を見つけた時は、本当にほっとした。そして、話をしているあいだ中ずっと咳をしていた。このようなところに行ったら、病気になるってしまうと思った。事実、彼の奥さんは私が行っても起き上がることができず、寝ていた。彼の家の写真を見せられたが、がれきの中に家の屋根だけがあるだけだった。私の家に戻って、私の家に二人を連れてこようと、二日後にまた行ったら、奥さんは避難所近くの病院に入院していた。それは、それで避難所よりは良いかなと安心した。従兄弟は、面倒をみなければならぬから、この避難所にいると、私の家には来なかった。（宮城 相沢 瑞男）

世代交代で三つの課題を実践

―発信つづけて二八年「反合研通信」三〇〇号達成！―

仲間と歴史を繋ぐ 大阪反合研通信、ついに「三〇〇号」を達成しました。思い起こせば一九八三年一月六日反合研ニュースとして（No.1号）を発行してから実に二八年間ほぼ毎月一回定期発行を続けてきました。三月二十七日とりたてて祝うことでもないのですが、運動の節目とこれからも闘い続けることをお互い確認する意味で、同窓

会的な気持ちで記念レセプションを開催することになりました。積み上げてきた通信三〇〇号の中には、時代の情勢、運動課題、全国の闘い、そして歴史を振り返る貴重な資料が詰まっています。大阪反合研通信は元々会員一人ひとりを繋ぐための交流紙として細々と発行を続けてきました。そしていつしか全国の仲間へ発信を続け闘う仲間との連帯を追求してきました。北は北海道から南は九州鹿児島まで多くの仲間から貴重なカンパを頂きながら何とか維持してきました。

記念レセプションでは、一号（一九八三年二月六日）、五〇号（一九八八年六月二日）、一〇〇号（一九九二年二月六日）、一五〇号（一九九七年二月一〇日）、二〇〇号（二〇〇二年三月一八日）、二五〇号（二〇〇六年一月一三日）の中から一部の資料を編集し大阪反合研運動の歴史を振り返ってみようと思つたと欲張って資料を作成しているところです。

一号、五〇号、百号 通信一号では、当時大阪地区本部による地区青年部介入（我々の排除）、一足先にやられた日通経営改善に対する同志の闘い、そして五九・二輸送合理化など「事業危機」が労使双方から叫ばれていたのが当時の特徴的な情勢でした。このような中で反合理化・職場闘争を堅持し全通運動の再生に全力を上げることを通して訴えています。資料として今では懐かしい「公企労レポート一九六二号」が添付されています。

通信五〇号では、大先輩の正田彰さんが「反合研ニュース五〇号」に寄稿されています。中曽根内閣が「ウイングを左にのぼし社会党右派まで支持基盤を広げる」と言ったことをとらえ「こうまで言われても、心のどこかに『労働者がそこまでは』という気持ちがあった。しかし、最近全通本部の『現代社会と郵政事業』を読んで、その気持ちがあつた」と郵政事業活性化計画が打ち出され全通本部が動揺を始める中で原則を学び大衆と共に反撃することを訴えられています。資料として「郵政事業活性化計画と【リ病者に病弱者】対策について」（全通高槻分会）資料が添付されています。当時の病者対策委員として岡安、石原、高山、近藤、峰、野元氏の名が連ねられています。

通信一〇〇号では、それまで開店休業状態にあつた全通中央反合研の事実上の再建を果たし、この年（一九九二年）の一月一四日〜一五日東京で全通労働運動研究全国交流会が開催され、山形、宮城、福島、東京中部、東京東部、東京西北、茨城、神奈川、富山、京都、兵庫、大阪、広島、徳島、鹿児島、労働大学、協会本部、四・二八裁判原告など総勢三五名が参加し全国的な交流が再開したことを報告しています。このころから近畿郵政局の重点経営推進局指定が更に強化され生野、豊中南に元旦出発式をめぐる処分攻撃がかけられています。資料として全国の郵便外務業務運行不良局一覧表（ワースト二五）が載っています。通信では「やっぱり弱まっている職場抵抗／労働強化・問責処分・意識改革攻撃の強まる中で」当時の全国情勢の特徴をこのように表現しています。

「企一号」 その他貴重な資料として早川義隆さんの会通職場闘争の進め方について

全通企一号のレポート連載がこの頃から始まっています。冒頭次のような書き出しで始まっています。

「会通大阪反合研ニュースの編集委員会から、企一号について、およそ一〇回に区切って「組織づくりを考える」をテーマに自由に書いてほしいとの話がありました。この企一号が決定された第二四回定期全国大会は宮崎市で開催されました。私が全国大会に参加した初めての大会であり、もちろん傍聴参加であったが、支部の仲間四名で、組合員の車を借りて、当時は、高速道路も無かったので、一八時間位かけて参加したことが思い出されますが、記念すべき大会であった事は後になつて徐々にわかってきたしだいです。」

早川さんは、退職後も地域ユニオン運動に関わり果敢に闘いを展開されています。まさに生涯を労働者として闘い抜くことを身を持って実践されています。企一号の職場闘争の進め方はいま職場での基本活動が崩されている中でヒントになるのではないのでしょうか。

展望 三月二十七日は、午後一時から第二八回大阪労働運動研究会総会を開催し、夕刻（五時）から記念レセプションとなります。今回の総会で代表・事務局長を中心に思い切つて世代交代をすることを決定しました。これからも大阪反合研通信を出し続ける努力をしながら、大阪労運研が①自分の闘いを例会にもちより交流しよう！②仲間と一緒に闘いもう一人の自分をつくらう！③生涯を闘い抜く決意を固めよう！

この三つの課題を実践する組織として大きく発展することを願っているところで。
（大阪郵政労働運動研究会事務局長 川越 俊巳）

◇ 編集 部 だ よ り ◇

今回の統一地方選の特徴はなにか。メディアは二大保守退潮、とりわけ民主がどれだけ敗けるか、名古屋の河村、大阪・橋下に率いられる「地域政党」と菅民主政権と政党再編の動向に焦点を当て報じ続けた。民主党で高まるキシミ、国民の心から放れた民主党は惨敗必至、政局はどう動くかと。

大地震、津波、原発が統一地方選の構図を大きく変えた。政権の「危機管理」が問われることになった。こんな時、「力を合わせがんばろう」と、政権への「求心力」が高まつて当たり前だ。しかし、事態は逆に動いている。昔は「求心力」をつくれしていない。

政党の組織力が問われる県議選、政令市で民主は惨敗した。惨敗ぶりを顕著に示すのが当選率だ。民主は県議選に五七二、政令市選に二三七の候補をたてた。当選者は三四六と一四七、当選率は六〇と六二%でしかない。自民党は県議選に一二四三をたて一一八九が当選、政令市では二四二をたて二二二が当選している。当選率は九五・六%と九一・七%。自民は党勢回復の手がかりを見つけたのに対し、民主は支持基盤を確立する機会を失った。

ローマ時代の文人パイドルスは『寓話集』で「時」について、こんなふう論じている。

「時は、額に髪があるが頭は禿（はげ）っていて、体は裸だ。だから、前の方から時を捕まえることはできるが、ひとたびすると身をかかわされると、ユピテル様でももう捕らえられない」

民主の将来はこの言葉に象徴されるだろうといつて過言でない。そして菅政権のも。

「フクシマ」は世界経済・政治経済の焦点。今回の選挙で日本はどうだったか。こんな中、東京・世田谷区長に「反原発」を掲げた保坂氏が当選したことは、一つの光明である。

悲しみを分かち合い、励ましあう

―被災地の国労組合員―

東日本大震災から一カ月が経つ。この間、組合員・家族の犠牲も報告され、自宅を津波に奪われたり、いまだ家族の安否が取れないという痛ましい話も聞く。組合員・家族、JRで働く仲間の皆様に心からお見舞い申し上げます。

被災地では、全国の仲間から届けられた支援物資を、被災地の役員自らが組合員宅に届けるなどの活動をして、組合員らに喜ばれている。さらに闘争団連絡会議がボランティア支援を決めたと聞いた。我々もできるだけの支援に努力したい。以下の話は、「国労東日本本部」のホームページに掲載された現地のニュースから引用・紹介である。

ご息子を失った組合員から

息子が家に帰ってきたのは一三日の一五時過ぎだった。受け入れ難い現実を目の当たりにして途方にくれてしまった。息子の地震当日の経過は、朝出勤、一四時四六分地震発生、四九分大津波警報発令、五六分救急出動命令、五八分救急車出発、一五時〇三分現場到着（徒歩一分で海辺）、一七分救急車現場出発、一五時二六分、遺体発見現場の時計が止まっていた時刻となっている。納得できないのは、大津波警報が出た後になぜ海辺に向かって出動命令を出したのかである。夜遅く宮古市長と消防士長が土下座して謝りに来た。残された家族にとって、誰が謝ろうが、想定外だろうがそんなこと関係ない。ただ、息子が帰ってきてほしいと願うだけ。市長と消防士長に向かって「息子は特攻隊でない」と怒鳴ってしまった。

電気がない、電話通じない、燃料がない中で葬儀の準備は進められた。家に祭壇を設置したが、飾る花が手に入らない。娘たちとティッシュペーパーを折って色をつけ飾りつけた。葬儀屋の手が回らず祭壇の写真もパソコンで引き伸ばし、間に合わせのものでやらざるを得なかった。まさに手作りの葬儀となった。告別式には、消防士長に参列していただいたが、弔辞の一言もなかった。家族としては、息子に対し「ご苦労様」と慰労の言葉が欲しかった。

救急車が横たわっている現地に行ってみた。そこには、見るも無残な光景が繰り広げられていた。現地で会った人達から話を聞くことができた。「みんな避難して高台から救急車を見ていた。車を止めて、必死に患者を救い出そうとしていたようだ。早く逃げればと思っていたところに津波が押し寄せた。」

「ろばた」（東北工事事務所分会機関紙）を通じ、この思いが組合員みなさんに通じると思うと心が和む。息子を飲み込んだ津波が憎い。これからの人生、この「津波」とかかわり、格闘しながら歩んで行こうと思っている。「国労せんだい」FAX版 四月五日）

救援物資を被災者に手渡しで配布

尊い命を奪った大津波。分会でも大切な副分会長・熊谷秀三さんを失いました。集

合写真の後ろの家は、副分会長の家です。私たちは常に一緒に居るのです。この日は副分会長の葬儀の日でした。きつと秀三さんも全国から送られた多くの仲間の救援物資を眺めながら、さすがは国労の仲間たち、と感心している事でしょう。

家を津波で流し、またその後の火事で焼失と散々な仲間たちに、全国の仲間からの心の温まる救援物資、本当にありがたいとうございました。OBを含め、この場にいらない仲間にも、手渡しで救援物資を渡してきました。(国労気仙沼地域分会「気仙沼」三月三〇日No.一一一)

洗濯ができないけれど頑張る

津波は一・五メートルの所で停滞していて予想以上に酷く、沼地に家が建っているようです。泥が凄くて水も出ません。まともに津波と闘った子供は余震におのんでいます。テレビ、冷蔵庫はバラバラ、洗濯機、仏壇、すべて壊れました。でも周りの人は遺体探しをしている人も多く、私はまだまだ幸せな方です。今日もスコップ片手にヘドロと悪戦苦闘、後片付けを開始しています。

長男は泥んこだらけで教壇に立っています。電気・水道が通っていないので洗濯ができないのです。「小学生の子供たちに命の尊さを教えていく」と言っています。「国労さんだい」FAX版 三月二五・二六 地本婦人部長)

想像を絶する悲惨な光景

三月二七日、四名で、常磐線沿線(浜吉田・山下・相馬・原ノ町)の組合員宅に物資配達を行なってきました。常磐線沿いの被災状況はマスコミで取り上げられることが少なく、十分知られていませんでしたが、想像を絶する悲惨な光景でした。

戦争時の焼け野原のような光景の中に、流されてきた車や小舟、瓦礫の山、レールはPCマクラギが付いたまま田んぼの中に散乱しており、鉄道の復旧には相当時間がかかると思いました。原ノ町は原発事故の影響で、町中のシャッターが下ろされ閑散としていて、組合員は「品物が不足」と困った様子で話をしていました。「国労さんだい」FAX版 三月二九日 地本副委員長) (国労・U)

気をつけよう！ 大災害を利用する支配者の意図

明治維新以後の支配者は、いろいろなことを利用して支配力を強め、延命を画策してきているなーと感じています。戦争、地震、台風などの自然災害などを本当によく利用しています。私には、この地震と津波の被害、原発事故を利用しての、自衛隊、米軍の動き等々は、訓練をしているとしか映りません。

原子力爆弾で一気到大勢の国民を失った日本人が、原子力開発をおしすすめるという姿と、原子力発電所事故を起こしているということを、私たちはどう受け止めればいいのか。

戦後の自民党の一党独裁政治が「お金で人の心を抑えてきた」結果、今の状況を生み出したのではないかと私は感じています。なぜ今、大連合なのでしょう。二大政

党論もぶつ飛んでしまいそうな感じですね。大政翼賛会への道ではないですか。関東大震災から太平洋戦争までの「弾圧政治」が準備されているような気がします。「日本は一つ。日本は団結。信じているから。」というメッセージが、テレビから繰り返して流されていることに危機感を感じますし、洗脳放送ではないかと思えます。この先陣を切ったのはスマップであり、石川遼君ですが、彼らに責任があるとは思いません。彼らが支配者側の真の姿、狙いを知っているとも思えません。先日、ソフトバンクの孫氏が一〇〇億円の支援金を出すという報道です。この動きをどう見ればいいのか。支配者側にいる人と勤労国民では「義援・支援」活動は違うのではないのでしょうか。資本主義社会における階級関係を隠ぺいしていく動きではないかと思えます。このような動きがマスコミを使って半年一年流されたら、国民の意識はどう変化するのでしょうか。どう誘導されるのかということではないですか。

私には、戦時中に使われた「欲しがりません、勝つまでは」という言葉が浮かんできました。支配者側からコントロールされた「社会不安」という状態・土台の上に、こうした洗脳報道がされてくることは、「反対」ができないという社会環境が作られ、自由と民主主義が奪われていくのではないかと思えます。今どこの職場にもつくられた人間関係と同じような状況を、「日本という国家レベルで一気に作り上げよう」としているように思えます。

私たちはどうするのか。今まで通り、仲間作りしかないというのが結論ですが、日本において自然災害が繰り返されることを理解したうえで経済活動と政治を考えるしかないではないかと思えます。ましてや今は地球規模で考えられることが求められているように思います。今回の核爆発は、大気圏内は二週間で地球を一周しながら汚染しているということですが、海流は何日で一周してきているのでしょうか。この汚染が数か月間続くということになるわけです。皆さんのご意見や感想をお待ちしています。(S)

◇ 読者からの おたより ◇

どこも同じ 学校の状況は東京は本当に厳しいですが、神戸も基本的なしんどさ、おかしさは一緒だなと想いながら読みました。労働組合らしい分会作りと思うのですが。(神戸・K)

編集部より 感想に感謝です。我が家の近くで最近先生たちの勉強会がありました。普通高、特殊学級等さらには裁判たたかう仲間たちで。

人間らしく生きるために たいへんな社会になっていますが、人間らしく生きられる社会をめざします。(筑後市・K)

編集部より 『まなぶ』で連載中の「三池闘争の教訓」、楽しく読んでます。

単身赴任十年 五日で単身赴任十年に突入。松山、神戸、大阪と流れ、N T Tの構造改革は家庭も健康も壊します。(徳島・Y)

編集部より 企業はでかくなるほどケチで非人間的になる。保坂さんの問題も同じ。

つづし合い 幻想の「二大政党論」どころか、戦国時代のつづし合い状態。今こそ革新・護憲勢力の団結を！(埼玉・M)

編集部より 亀井(国民新党)が典型ですが、大政翼賛政治の「救国内閣」樹立の声が出るまでになりました。かならず矛盾は爆発します。その時に備えるための中心軸つくりMさんいわれる団結がなにより重要。

残金カンパ 送金遅くなりました。残金カンパです。身体に気をつけ頑張ってください。(大阪・J)
編集部より カンパありがとうございます。Jさんもお身体大切に。

楽しみ 購読料です。些少ですが今までの残金と残りはカンパとさせて下さい。ますますの楽しみとさせてもらっています。(愛媛・H)

編集部より カンパに感謝です。どんなテーマがいいのか知らせていただければ嬉しい。頑張つて 残金は少額ではありませんが、かんぱと致します。頑張つて下さい。(那覇・S)

編集部より カンパに感謝。沖繩の現状、寄せて。そうすれば私もがんばれる。雇用、職場闘争 (ごぶさたしてします。今年闘争団の雇用問題とJR職場での職場闘争に向け、職場で頑張ります。(茅ヶ崎市・A)

編集部より 二月には鎌倉にうかがえず申し分けありませんでした。会いたい。ストロンチュウム90 半減期の短いヨードよりも、半減期の二九年と長いストロンチュウム90が、分析・公表されていないのが気になります。カルシウムの同族元素なので魚の骨などで食物連鎖が大きいはずです。(東京・H)

編集部より 今読んでいる本に、「原子炉でつくり出されてしまう放射能はたくさんあり」、「それぞれに決まった臓器に集中し蓄積される性質があることが明らかにされている」「ストロンチウム90は主に骨に沈着し、造血機能を破壊して白血病を引き起こす。セシウム137は骨、肝臓、腎臓、肺、筋肉に。ヨウ素131は甲状腺に集まり、甲状腺機能障害、甲状腺癌を引き起こす。このヨウ素は空気中から植物体内に二〇〇〜一〇〇〇万倍にも濃縮されることが分かっている。ミルクの中には六二万倍に濃縮される。他方、トリチウムの場合は全身の臓器に、コバルトも全身に(一部は肺に)沈着する」と。じわじわと襲いかかる内部被曝と食物連鎖、怖いです。ゲストハウス 原発の脱出者で満員 沖繩行きフェリーでは、失業中で「原発が危ないので逃げることにした」という青年と一緒に泊まる場所は決めてないということだったので、引越越しを手伝ってもらう条件で三日間一緒に過ごしました。那覇のゲストハウスやウイークリーマンションは、関東圏から脱出した人たちで満員とのこと。横須賀から来た年配のドイツ人は、「横須賀の米軍は避難して空っぽだし、ドイツ大使館も大阪に移った。落ち着くまで沖繩にいますつもりだが、五月には戻らないと仕事の籍がなくなる」と話していました。(沖繩・M)

編集部より 土浦のシテイホテルも福島からの長期契約者で満員とか。お金持ちはいるんですね。不思議な解説に怒り 「安全神話がくずれた」と言っておきながら「基準の〇〇倍の濃度」「体に影響はない」など不思議な解説に怒り。体を大切に、ケガなど気をつけてください。(釧路・K)

編集部より 電力会社や政府が言う「原発は五重の壁に守られ安全」神話は崩壊。しかし、「微量な放射線なら大丈夫」神話は崩れないなか、被害者は増大していくんですね。

1094号雑感 浅学非才のふらふらした雑感です。笑い置いてください。①独占資本の犯罪 すべての原発を止めさせようまったく同感です。東電という独占資本だけでなく、結託している官僚・政治家・大手マスコミ・御用学者の共同体・体制の自己増殖・自己保存運動そのものですね。非常時には正直あらわにみえてきますね。・早速、計画停電で原発の必要性を意識操作しています。・高速道路のいわきあたりの通行止めについて、いまだに地震のためと放送・表示していますが、「原発事故」のためとするべきでしょう。なにか意図を感じるの考えすぎでしょうか。さてどうやってやめさせるか。最後のチャンスです。(東京・N)

編集部より すばやい読破に感動です。また会って思い切り語りましょう。

パンフ送ります 電話でお話しさせて頂いた件、パンフを送付します。大変恐縮ですが『社会通信』No.一〇八五号(二〇一〇年十二月一日)を次回号と一緒に送付頂きたい。(神奈川・T)

編集部より パンフありがとうございます。じつによくできてる。感謝です。

原さん論稿から No.一〇九〇、一〇九一の巻頭言の原さんの「合理化の本質」や、その他の方々の文は示唆に富むものだった。一見、解っているつもりの方々のことば(難し気な学問語―例えば疎外、物象化、弁証法などではなく)が、実はそのあいまいな点を含めて、身近か過ぎて、明晰には捉えられていないため、共通理解から遠いということ、その為、「共闘」を妨げている。因にさえないってことを伝えているからである。合理化、合理性、合理主義の意味内容(本質)とは何か。改めて尋ねられると返答に窮する。さらには、理性、道徳の「理」とは何か。このような語は山ほどありうる。原さんの言いたいことは、一見、中立中性な概念・認識でも、どのような階級的磁場・文脈に置かれるかで、その意味内容は正反対になりうる、ということだ。ゼニ儲け至上の資本制システムに置かれれば殺戮・搾取・抑圧・偏見の道具になってしまう。

だとするならば、弱者人民の希望・幸福・解放を願う者なら、もっと別の賢いシステムを構築するほかない、ということになる。(花井吉宅)